

## カンボジア教育関係者を招いて来日研修を行いました

10月11日(水)～16日(月)、本学では、NGOうどんハウスの楠川富子氏や本学医学部清水裕子教授が中心となり、JICA草の根技術協力事業として展開しているプロジェクトにおいて、カンボジアの学校関係者や行政関係者などを香川に招いて、来日研修を実施しました。(この研修は研修員を2つのグループに分けて招へいし、今回は第1班に対して実施したものです。)

この研修では本学医学部での座学及び実習のほか、本学附属小中学校での保健室や衛生指導現場の視察、高松市の上下水道施設の見学等を行い、カンボジアにおける衛生教育改善のリーダーとなる人材の育成を図ることを目的としています。

このプロジェクトは、カンボジア政府も

大きな関心を寄せており、今回、第1班の来日に合わせて、同国の教育・青少年・スポーツ省長官も香川へ来訪され、研修の様子も熱心に視察していただき、香川県副知事、本学学長への表敬も行いました。

最終日の報告会においては、研修員各々から、日本が清潔であること、水や物質の資源管理に優れていること、教育技法や学習指導に優れている点等について、「感激」「素晴らしい」「驚いた」との発表があり、研修員にとって実り多い研修となりました。研修員がカンボジアに帰国した後、これらの経験を活かし、自国でのリーダーとなって衛生教育の改善を推進してくれることが期待されています。



## 金田特任教授が日本地震学会技術開発賞を受賞

公益社団法人日本地震学会は、優れた技術開発および研究基盤構築により地震学に重要な貢献をした個人または団体を「日本地震学会技術開発賞」として表彰しています。

金田義行特任教授から受賞団体が開発した「地震・津波観測監視システム(DONET)」は、世界的にみても最先端かつ最高精度の海底観測ネットワークであると認められたこと、運用直後から、その高精度の観測技術を利用した地震学への顕著な科学的成果も出てきていること、またその観測データが地方

自治体やライフライン事業者等へも配信され、早期津波対策や避難誘導、安全対策等で活用されていることから、受賞が決まりました。授賞式は、10月25日(水)に2017年度日本地震学会秋季大会において行われました。

【日本地震学会技術開発賞】

・授賞対象功績名:「地震・津波観測監視システム」の開発と地震学分野への貢献  
・受賞団体:川口勝義、高橋成実、金田義行及びDONET開発チーム



## バリアフリー支援室「初心者向け手話講習会」を開催

10月27日(金)、香川大学幸町キャンパスにおいて、「初心者向け手話講習会」を開催しました。これは、学生及び教職員のバリアフリーに関する意識向上と障害者支援に関する知識・スキル向上を目的として開催したものです。

香川県聴覚障害者福祉センター主任 藤井真作憲氏を講師としてお招きし、あいさつ、

自己紹介などについて、初心者にも分かりやすくご指導いただきました。

参加者記入のアンケートからは「初心者にも分かりやすく楽しめた」「手話をもっと勉強したい」「手話の構造や成り立ちも知ることができたのでよかった」などの声が多く寄せられ、とても有意義な講習会となりました。



えらい

「しんどい」という意味で、部活の厳しい練習が終わった後など「今日の練習えらいだったな。(今日の練習しんどかったな。)」などと話している声を耳にします。  
また、「えらい」には「すごい」「かなり」などの意味もあり、「今年の夏はえらい日焼けした! (今年の夏はすごく日焼けした!)」とて使ったりします。  
もちろん、そのままの「偉い」の意味でも使います。

発行:香川大学広報室  
soumkot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

香川大学ホームページ  
http://www.kagawa-u.ac.jp/



## 学長閑話

香川大学長 寛 善行

学長となって初めての「閑話」であるので、何か気の利いた所信の様なものを書くべきかと思つたが、このコーナーはあくまでも「閑話」であるので気分の赴くままに書かせていただく。とはいえ、9月号の長尾先生の学長としての最後の「学長閑話」のさらに最後のメッセージ、「引き継ぐ諸氏がすべて後輩のため、本学の発展のためと『塊』となって各自の力を発揮されることを期待する」は心にずしんと来るものがあつた。身の引き締まる思いである。

さて、私自身大学生の息子を持つ身であるが、子供を一人大学に通わせるには金のかかるものだと痛感している。地方の国立大学で学ばせていてこれであるから、生活費の高い都心の大学であれば親御さんの経は相当細くなるのだろうと想像される。本学も奨学金制度を拡充する方向で検討に入っているが、地元の企業などにご理解をさらに求める必要がある。とはいえ、米国に比べ日本の大学生の学費はまだ安い方であることを最近知った(「アメリカの大学の裏側」アキ・ロバーツ、竹内洋・朝日新聞出版)。米国で日本の国立大学に相当するのは州立大学ということになるが、州外からの学生は年間約240万円、もともと州内居住の入学学生は95万円前後とのことだ。有名州

立大学ならばこの1.5倍程度になるらしい。学費高騰の原因は様々のようだが、教員や職員の給与の上昇だけではなく、そもそも各州が大学への支援金を削減していることも要因のようである。これは我が国とも似た背景で身につまされる。とはいえ、学費高騰の結果、全米の学生の3分の2が卒業時にローンを抱え、貧困層の子供の大学への門は狭まる一方で、米国社会の格差拡大要因の一つとなっている。

ところで、8月初旬に東京大学のi.schoolが小豆島に香川県内の高校生を集めて東京大学イノベーションサマースクールを開校した。私はわずか半日ではあつたが見学に行かせてもらったが、そこであるファンリテーターの米国から参加した大学生に遭遇した。ミネルバ大学の学生とのことだった。数年前に開校したばかりのキャンパスのない全寮制の大学だが、今世界中から注目されている。学費が安いことも売りの一つとのことだが、人気の秘密はそれだけではないらしい。今回はこのミネルバ大学の教育戦略から話を続けてみたい。



## 香大サークル紹介



### バレーボール部

初心者から経験者までいろんな人が一緒に練習しています。監督がいなくても、キャプテンが全体の指揮をとり、自由で賑やかに日々の練習を一生懸命頑張っています!目標は、男子は一部優勝、女子は一部昇格です。県内や他県での練習試合のほかに、他大学との大きな大会などの交流もあります。日々の練習に真摯に取り組みながらも、新歓祭・夏旅行・学祭・忘年会など、たくさんの楽しい行事もあります! ■活動場所:平日は第一体育館、土曜は第二体育館



### 華道部

月二回、土曜日の朝10時からお稽古を行っています!学年や学部に関係なく、みんなで楽しく活動しています(◡\_◡)お稽古では、小原流の先生から優しく丁寧に教えて頂いています!お免状もとれるので、資格にもなります!(^o^)!お稽古以外にも夏旅行や食事会などがあり、雰囲気も良くとても楽しいです☆男子の部員もいるので、興味のある方は男女問わず大歓迎です(◡\_◡)まずは気軽に、見学に来てみてください!お花も綺麗で癒されること間違いなしです!! ■活動場所:サークルBOX2階



### 児童問題研究会ひばり

私たちは児童問題研究会ひばりです。あまり知名度はありませんが昭和58年から続く歴史のある部活です。主な活動は、高松平和病院で行われている「おひさま教室」、大学病院での「小児病棟ボランティア」の2つです。子どもとふれあう機会がたくさんあります。子どもと遊ぶことが得意な人や好きな人はぜひ参加してみてください。 ■活動場所:香川大学医学部附属病院、平和病院